



URL <http://www.pippo.co.jp>
Email pippo@diana.dti.ne.jp

ピッポ新聞

2003

5

No.175

子どもの本専門店

ピッポ

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

〒424-0886 清水市草薙1-6-3

TEL & FAX 0543-45-5460

ただいま「古書店歴一年半」

その2

ある時、自治会の当番で、段ボールや古新聞などの整理に当たっていたときのことです。集められた古紙を古紙回収業者に手渡すまでが当番の仕事ですが、ぼくはそこで、突然ひらめいたのです。「そうだ！古紙回収業者の所へは本も集まるはずだ。これだ！」。さっそく静岡と清水の数軒の業者に電話しました。

ところが何と、すべて断られてしまったのです。その理由は「既に契約している古書店がある」とか、「数軒の古本屋さんもう出入りしているから」というのです。

こうして、ぼくの素敵な(自分だけそう思いこんでいた)ひらめきは、もろくも崩れ去ってしまつたのです。冷静に考えれば、こんなの「ひらめき」でもなんでもなく、誰でも考えつくことだったのですね。まだこの方法は有効だと思つていて、あきらめてはいませんが、とりあえずはこのルートからの仕入はダメでした。

それでは、次にどんな仕入れ方法があるのでしようか。前回、店頭に「子どもの本の古書を買います」と表示できないと書きましたが、ホームページ上でならそれは可能です。他のネットショップの古書店を見てもそういう表示を良く見受けません。そこでホームページ上へ「子どもの本を

購入いたします」という欄をもうけたのです。

あるネット古書店の人にきいたら、「ぼくの所は以前ホームページ上に本を購入すると出したから、本が集まりすぎて処理に困ってしまったから、今ではやめているよ」という話でした。そこで、どんなにたくさんさんの反応があるかと、期待して待っていたのです。ところが、待てど暮らせど反応が無いのです。

処理に困るぐらいに本が、集まってくるはずだったのですが、掲載以来の成果が、たつたの5件でした。しかし、連絡をしてくれた方すべてが、50冊から200冊ぐらいの量でしたから、それなりに収穫はあつたのです。ぼくはこの内1件を除いて、4人の方から購入いたしました。お断りした1件は、ぼくの欲しい本とは傾向が違っていたからです。

ところで、ぼくには、古書を一括購入するのは楽しみでもあり、難しいことでもあります。送られてくるリストのなかに、探していた本が入っていたりすれば、「もう今回はこの1冊だけでいい！」なんて思ったりしますし、思つてもいなかったタイトルを見つければ、「そうだ、こんな本もあつたっけ」とうれしくもなります。

しかし、当たり前前のことですが、送られてくるリストのうちすべてが欲しい本とは限らないのです。ブックオフなどで買う場合は、自分が欲しい本だけを選べば良いのですがね。

例えば、50冊のリストの内、10冊だけほしい本で、後の40冊はいらなないとします。この場合、「ほしいのは10冊だけで、後はいりません」とは、なかなか云えないものです。相手の方は纏め

て処分をしたいわけですからね。

問題は購入値段なのです。例えばこれを2500円と伝えた場合、相手の方は「50冊で2500円は随分安いな」(中には随分高く買ってくれると思う方もいらっしやるかも知れませんが。いるわけないか!)と思われるかもしれませんが。しかし、ぼくとしては50冊を2500円で買ったのではありません。運賃はこちらの負担ですから、50冊だと段ボール1個(小さめの箱だと2個分)、これが1300円(2個だと2千円超える)ぐらいかかるわけです。

こちらは3800円以上で買うことになるわけです。しかも、ぼくとしてはあくまでも10冊分の値段であって、後の40冊分は念頭にないのです。

では後の40冊を、ぼくはどうしているのかというと、ホームページ上にアップして売ることはいしません。これまで4人の方から買ったわけですが、アップしてない本が段ボール5箱分ありますが、そのまま置いてあるのです。もつと増えれば、廃品回収に回すかもしれません。ぼくは古書を、単にリサイクルの対象として考えているわけではありませんから。

というのも、ぼくが子どもの本専門の古書店を始めた目的の一つは、品切れや絶版になった本で、是非もう一度子どもに手渡したい本を再流通させたいからです。売れば何でも良いなどは考えていないのです。ですから、余り売りたいくない本や、強いてばくが売らなくても良い本は、たとえそれが絶版であつてもホームページにはアッ

プいたしません。本の内容にこだわりをもっていることは、新刊の子ども本専門店と、一般の書店との大きな違いですが、同じように、ここが、他の古書店とピッポ古書クラブとの大きな違いなのかもしれません。ここまで、古書の仕入について書いてきたわけですが、仕入の方法一つとっても、新刊書店とは随分違うものです。

新刊書店の場合は、ほとんどの本が取次店を通して入荷するわけです。しかも、仕入れる本は自分が選ぶのではなく、多くは取次店任せなのです。取次店は店の規模によつて送る本の量や内容をパターン化しているのです。(ぼくはこの新刊配本をすべて断つて、自分が仕入れたい本だけを発注しています)良かれ悪しかれ、新刊書店は、取り次ぎを通してしか、本の仕入ができませんのです。

一方古書店は、仕入れの方法は、ぼくが書いてきたように、自由です。唯一の頼りは自分の「目」だけなのです。ぼくにはこれがとても面白いのです。

しかし、欠点は仕入が安定していないことです。だから、ピッポ古書クラブとしては、安定的に古書を仕入れる方法を、まだまだ模索し続けなければならないようです。新刊書店と古書店の違いはまだあります。そこで、次に、古書店と新刊書店との違いについて書いてみたいと思います。

「魔法のつえ」本日夕刻に届きました。郵便局が休みなので、6日に振り替えで送金いたします。ありがとうございました。

た。

「魔法のつえ」は、昭和19年、国民学校4年生の時、級友から借りて読みました。その後、時々思い出して読み直したいと思いながら、著者名、題名が分からず、昨年、講談社の資料室にあらすじを書いて問い合わせたところ、ようやく分かりました。ところが絶版というので、インターネットで探し回り、国際子ども図書館にあることが分かり、新幹線に乗って読みに行くかと思っていました。ふと、古書店にないかと思いついて、インターネットで検索したところ、神の助か、貴店にたどり着きました。感動でした。1冊しかないのに、売り切れていないかと不安でしたが、発送したとの知らせに、信じられない思いでした。荷をほどこのももどかしく、一気に読みました。59年前の、幼い日の記憶がよみがえってきました。感謝、感激です。ありがとうございました。

これは、つい最近新潟県的首藤さんという方からいただいたメールですが、新刊書店とは違った喜びを、ぼくにもたらしてくれました。こんなに喜んでいただければ、古書店冥利に尽きると言つもの事です。

ネット古書店を始めて一年半、意外だったのが、子どもときに出会った本と再会したいという方が多いことでした。

しかし、まず記憶をたどつて、その本を特定することは案外難しいですね。ぼくも、中学の時、国語の先生が読んでくれた

本(ぼくを本好きにした本の中の1冊でもありません)と、もう一度出たいと思っ

ているのですが、未だにその本のタイトルさえ分かりませんもの。

たうえ、その本を特定できたとしても、再会することは場合によっては首藤さんのように、簡単ではないと思います。絶版になっ

ていることも多いのです。こんな場合、一番良い方法は図書館で探すことです。図書館司書が協力してくれ

続きは次号へ。

ねーこの本読んだ？

『コッコさんとあめふり』(片山健・作 780円 福音館書店)



雨が降り続くので、コッコさんはてるてるぼうずをつくって雨が止むことをお願い

「コッコさん」シリーズの新作

『いーはとあーは』(やぎゆうげんいち)

ろう・作 780円 福音館書店)



虫歯にならなためにはどうしたらいいのかな?小つちやい子に自分の歯に関心を

『だるまちゃん・りんごちゃん』(かこさとし・作 1260円 瑞雲社)



リンゴ祭りへの招待だったのです。だるまちゃんは電

のつて、山奥のリンゴ村へでかけます。でも途中でバスが故障してしまいました。バスでいっしょになつたお婆さんと一緒にだるまちゃんはいくつもの山を越えていきま

『ゆうびんやさんのホネホネさん』(にしむらあつこ・作 780円 福音館書店)

ホネホネさんは、とても親切な郵便屋さんなので



ネルに住んでいるニヨロコさんへだつて配達するものね。この絵本はちよつと変わっています。表紙と見返しに鮮やかな黄色・赤・青を使用しているのに、本体の絵は黒い線画で描かれていますから。それが何だかとても新鮮に感じます。

『マジヨモリ』(梨木香歩・文 早川司寿乃・絵 1365円 理論社)



つばきはある朝一通の招待状を受け取りました。それには「まじよもりへ「ごじよ

蔓の案内に従って森の奥へはいつていくと...この話、古い伝説を下敷きにしていながら、とても今風に、女の子が森の中で「お茶する」という話になっている。ここには子どもとしてつばきの母も登場するのだが、少女時代の「大切な思い出」を嫌みのないノスタルジアで表したものが。

『ヘンリー フィッチバーグへいく』(D・B・ジョンソン・作 今泉吉晴・訳)

この絵本は今から150年前のアメリカのナチュラリストであり、思想家のヘンリー・D・ソローの考えに共鳴した作者が、その考え方を絵本にしたものです。話は、48キロ先のフィッチバーグまで、ヘンリー(くま)は歩いて出かけます。一方ともだちではきたばかりの汽車に乗りたくて、そのため汽車賃を得るためまず働くのです。絵本では、左のページにもだちの働く様子が、



右側にはヘンリーが様々なことと出会い それを楽しみながら フィッチバーグへ向かう様子が描かれています。訳者の今泉さんはこの絵本について「・・・ふたりの一日のすこし方、経験の楽しみ方などをとおして、子どももおとなも楽しめる、ソローの『いまを楽しく生きる』思想のすばらしい入門書になっています。」と書いています。

ところで、ソローの「いまを楽しく生きる」という考え方は、昨今の若者たちの享乐的な「楽しきやー、いいじゃん」ということとは全然違いますからね。この絵本を読めば、そのことは一目瞭然ですけれどね。

インフォメーション

「ばあーやおはなしかご」

今月は5月24日(土)にピッポでもつじき雨の季節ですね、雨にちなんだお話や、絵本の読み聞かせがきけるかな？ 宮崎久子さんと、お負がピッポのおじさん午後2時からピッポでやりますから、是非いらしてください。

*福音館から、シートンの動物物語の新訳が出ます

「ヘンリー フィッチバーグへいく」の訳者・今泉さんが6月中旬、先ず、「ジョニー・ベアー」「ラギーラグ」「オオカミ王ロボ」(各900円)の3冊のシートンの動物物語を出します。今泉さんは去年、評伝「シートン」(福音館書店)を書き、各方面から評価されましたが、今度の動物記の新訳も楽しみです。

さらに今泉さんについての耳寄り情報

現在、ビパルの別冊「ビパル プリマクラッセ」(季刊誌)にソロー「ウォールデン 森の生活」の新訳を連載中です。そして、今泉さんの講演会が7月8日午前10時から、静岡市立中央図書館で予定されています。詳細は054・246・8346池上さんまで連絡を

編集後記

おじさんの世迷い言

「っ ポイ」これ、何だかわかりますか？実は、漫画のタイトルなのですが、どう読めばよいのでしょうか？ぼくはこれを見て、どう発音すればよいのか分からなかったものだから、漫画の持ち主に聞いたのです。そしたらその人(若い娘)は、このおじさんバカじゃないかって顔をして「そのまま読めばいいのよ、ポイ」そこでぼくは重ねて「じゃー前の小さい「っ」はどうするの」「そこで彼女は初めて気付いたように「わかんない」と言って、行ってしまいました。きつとこんな変なおじさん相手にしてしまうのがないと思ったのかもしれない。

この小さい「っ」は促音ですね。促音は「気障っぽい」とか「あつ」などと使い、最初にくることはありません。最初に来れば、ぼくが戸惑ったように発音できないのです。この漫画の作者はどういうつもりでこんなタイトルを付けたのでしょうか？「感覚的」「デザインの」に、しゃれたつもりなのだろうけれど・・・。

後ろに「ぽい」がつくと、必ず促音をとまなうものなのです。 「うそっぽい」「いやみっぽい」「その話サギっぽくないか」なんてね。どうも、「ポイ」というのは余りほめ言葉には付かないようですが、どんなものでしょうか。

そんなこと気にするなんて「あなた、ちよっと年寄りっぽいよ」とか「ヒマっぽいね」などと他人様に云われかねないから、「このへんでやめておっっ」。